

「自己資本に係る基礎項目の額に算入された額」に関する注記 / 三菱東京 UFJ 銀行（連結）

銀行法第 14 条の 2 に基づき、銀行がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準等の一部を改正する件（金融庁告示第 28 号）（平成 24 年 3 月 30 日公布）附則第 3 条に定める経過措置により、平成 26 年 3 月 31 日（「計算日」といいます。）時点の適格旧 Tier1 資本調達手段及び適格旧 Tier2 資本調達手段の額のうち、その他 Tier1 資本に係る基礎項目及び Tier2 資本に係る基礎項目の額に算入することができない額は、それぞれ以下のとおりです。

その他 Tier1	
適格旧 Tier1 資本調達手段に係る基準額 (平成 25 年 3 月 31 日時点の適格旧 Tier1 資本調達手段の額) …①	15,576 億円
基準額に乗じることとされる計算日に適用される率 …②	80 %
計算日の適格旧 Tier1 資本調達手段に係る算入上限額 (その他 Tier1 資本に係る基礎項目の額に算入可能な額) …(A) =①×②	12,461 億円
計算日の適格旧 Tier1 資本調達手段の額 …(B)	16,391 億円
うち、(三菱東京 UFJ 銀行が発行する優先株) (特別目的会社が発行する優先出資証券) (*)	3,900 億円 12,491 億円 (7,394 億円) (2,300 百万米ドル) (1,250 百万ユーロ) (550 百万英ポンド)
計算日の適格旧 Tier1 資本調達手段の額のうち、その他 Tier1 資本に係る基礎項目の額に算入できないものの総額 …(B)－(A) (ただし、当該額が零を下回る場合にあっては零とする。)	3,930 億円

(*) 外貨建て調達手段の場合は、当該特別目的会社の決算日である 2014 年 1 月 24 日の三菱東京 UFJ 銀行公表相場仲値で円換算。括弧内は原通貨による調達手段の額を表示。

(Tier2 については次ページに掲載)

Tier2	
適格旧 Tier2 資本調達手段に係る基準額 (平成 25 年 3 月 31 日時点の適格旧 Tier2 資本調達手段の額) …③	22,596 億円
基準額に乗じることとされる計算日に適用される率…④	80 %
計算日の適格旧 Tier2 資本調達額に係る算入上限額 (Tier2 資本に係る基礎項目の額に算入可能な額) …(C) =③×④	18,077 億円
計算日の適格旧 Tier2 資本調達手段の額 …(D)	18,621 億円
うち、(三菱東京 UFJ 銀行が発行する国内公募劣後債)	12,260 億円
(三菱東京 UFJ 銀行による劣後ローン借入)	3,876 億円
(特別目的会社が発行する私募劣後債)	2,092 億円
(海外連結子会社が発行する公募劣後債) (**)	392 億円 (372 百万米ドル)
計算日の適格旧 Tier2 資本調達手段の額のうち、Tier2 資本に係る基礎項目の額に算入できないものの総額 …(D)－(C) (ただし、当該額が零を下回る場合にあっては零とする。)	544 億円

(**) 当該海外連結子会社の決算日である 2013 年 12 月 30 日の三菱東京 UFJ 銀行公表相場仲値で円換算。括弧内は原通貨による調達手段の額を表示。